

## 町民説明会の開催結果について

会場		意見	回答
1	竹浦	居住誘導区域とは、20年後までに住民が住んでほしいという区域なのか。また、区域外の住民についての考え方はどうか。	本計画は、20年先の人口を見据えて、各地区の駅周辺に居住をまとめ、人口密度を維持していくことを目標とするものです。 また、区域外における居住を否定するものではなく、家の建て替えや引っ越しなどのタイミングで、区域内への転居を促し、検討いただくなど、時間をかけた誘導によって緩やかな集積を図っていくものです。
2	竹浦	20年後の竹浦地区の人口はどのようになっているのか。また、どのようにして居住誘導を図っていくのか。	20年後の竹浦地区の人口は、現在の半分になると予測されており、同地区の人口密度を維持していくためにも、緩やかに居住誘導を図っていく必要があるものと捉えております。 また、区域内への誘導を促進する一つの手法として移転補償による対策も考えられますが、本町としては、お住いの方のライフイベントを契機とした、住み替え検討等を、長い時間をかけて促していきたいと考えております。
3	竹浦	居住誘導区域への誘導を促進させると、飛生地区がより一層、限界集落化してしまう。あまり集約しない方がよいのではないのか。	この計画は、区域外の集落をないがしろにするものではなく、そこに住む人の権利を認め、時間をかけて緩やかに居住誘導を図っていくための計画です。 各地区の人口密度を維持し、生活サービス機能やコミュニティを持続させるためにも、本計画の推進は必要であると考えます。
4	虎杖浜	虎杖浜地区の町民の多くは登別市を生活圏としているため、隣町との連携の視点を本計画に盛り込んではいかがか。	この計画は白老町の将来都市構造の考え方を示す計画であるため、ご指摘の視点を盛り込むことは困難です。
5	虎杖浜	登別市との共生を考えていかないと虎杖浜地区の発展はない。登別市と手を取り合いながら、この問題についてしっかりと協議していただきたい。	ご意見として重く受け止めます。
6	石山・萩野	駅周辺に居住をまとめていくとの考えであるが、新幹線の札幌延伸や、JRの経営状態等を考えると町内の駅が存続するとは限らない。将来的な駅の存廃を考慮して、誘導区域を設定しているのか。	町内の駅の存廃については、町では分かりかねますが、鉄路の利用促進を図りながら、駅周辺に居住を集め、コンパクト・プラス・ワーク型のまちづくりを推進していく考えです。
7	石山・萩野	今後の都市づくりには、公共交通の確保が重要である。町民ニーズをしっかりと捉え、効率良い運用に向けて、みんな考えていくことが大切である。 また、生活機能を維持するための商店への支援や、誘導区域への居住を促進させるための移転助成金なども考えているのか。	東西に長い本町の地勢や歴史的な背景を踏まえ、各地区の駅周辺に居住を集め、生活の場を形成していくことが本計画での考え方です。 この都市構造の実現には、公共交通が重要な要素となることから、町民の皆さんの意見をしっかりと聴きながら、町民ニーズに沿った運用となるよう努めてまいります。

会場	意見	回答
8 石山・萩野	誘導区域内における減災対策についての具体策（役場・消防・病院）を教えてください。特に、津波により役場の公用車が流された場合、役場機能が維持できなくなると思うがいかがか。	生活利便性を確保するためには、誘導区域内に居住を集め、まちの密度を高めていくことが重要です。また、誘導区域内における減災対策もあわせて推進していかなければならないと捉えております。 町立病院については、ピロティ化による津波一時避難場所としての活用を予定しており、役場については、建設場所や機能等について、現在検討中です。また、被災時における移動手段的確保という観点から、公用車の駐車場所等についても今後、検討が必要であると考えます。
9 石山・萩野	役場庁舎の建設については、現在協議中であると思うが、新庁舎ができるまでの間、津波に対してどのように対応していくのか。	現在、役場庁舎の基本計画を策定していますが、庁舎が建設されるまでは、引き続き、防災周知や意識啓発等に取り組み、津波に対する防災意識の向上と共助体制の強化を図っていきます。
10 社台地区	社台地区には津波の指定緊急避難場所がない。具体的な対策は考えているのか。	社台地区の津波避難に対する課題は、町としても認識しています。具体的な方策については、現在、役場内部で検討しておりますが、早急に対応していかなければならない案件であると考えております。
11 社台地区	社台地区の津波避難場所に社台墓地区が仮指定されているが、鉄南から歩いて30～40分、避難に時間がかかることから、垂直避難できる構築物などの整備を望む。	社台地区には垂直避難できる施設がありませんので、津波避難タワーの整備など、様々な手法を検討し、早期に対応できるよう努めてまいります。
12 白老地区	この計画は人口減を受入れた都市づくりを策定の趣旨としているが、反面、人口増につなげる施策は町としてどう考えているのか。また、各地区の年齢構成や特色を考慮した計画となっているのか。	本計画は人口密度を高め、居住や都市機能を維持していく計画であり、移住定住策を推進しながら暮らしやすいまちづくりを進めていきます。
13 白老地区	ウポボイに勤務していても白老に転入しない人、白老に勤務しながらも町外に住んでいる人など多くいるが、何が原因で町外に転出してしまうのか、その原因を教えてください。また、今後における町内会編成の考え方を町はどう考えているのか。	本町に定着しない要因としては、アパートの家賃が隣町に比べ高いことや、若い人が利便性を求め都市部に居住する傾向があることなどが考えられます。現在、町外からの定住を促すため家賃助成等を行っており、本事業を推進させながら、より多くの人に住んでいただきたいと考えております。 また、町内会の今後のあり方については、がんばる応援補助金などを活用していただきながら、町内会の統合を促し、コミュニティが持続するよう努めてまいります。
14 白老地区	町立病院を南側に建設する意図を教えてください。	病院改築基本計画において現地建替えを原則としていることや、福祉ゾーンとしての位置付け、鉄北にある町有地のどこに建設しても2.5m以上の津波浸水がみられること等、総合的に判断して現地建替えとしました。 また、町立病院周辺の住民の津波一時避難場所は、現在、白老東高校であるが、この場所は町立病院より浸水深が高く、避難に適さないことから、病院周辺の住民が安心して垂直避難できる場所として、津波一時避難場所の機能をあわせた現地建替えとして整備するものです。